

第 36 回歴史地震研究会（徳島大会）のお知らせ（第 3 報）

第 36 回歴史地震研究会（徳島大会）のプログラムが決定いたしました。講演要旨送付、懇親会・巡検参加申し込みの締め切りは 7月31日（水） です。申込先・送付先は、8. 懇親会・巡検参加申し込み先，講演要旨送付先をご参照ください。

1. 場所

徳島大学地域連携プラザ地域連携大ホール

徳島市南常三島町 1 丁目 1 番地（徳島駅からバスで約 10 分）

<http://www.tokushima-u.ac.jp/visitor/shisetsuriyouannai.html>（地域連携大ホール）

<http://www.tokushima-u.ac.jp/access/>（アクセスマップ、常三島地区）

2. 日程および参加費

2019 年 9 月 21 日（土）～ 23 日（月・祝）の 3 日間

21 日：研究会（午前）・公開講演会（15 時～17 時 30 分）

22 日：研究会・総会・懇親会

23 日：研究会（午前）・巡検（午後）

○公開講演会は無料です（会員，非会員とも）。研究発表会は大会参加費として 会員 2,000 円，非会員 4,000 円を徴収します。

○懇親会（会費 5,000 円程度）は徳島大学生協第一食堂で開催します。有名連による阿波踊りを予定しています。

○巡検の参加費は 4,000 円程度です（昼食・保険含）。

懇親会と巡検は 7 月 31 日（水）までに申し込みをしてください。申込先は 8. 懇親会・巡検参加申し込み先，講演要旨送付先をご参照ください。

3. 講演要旨について

発表 1 件につき A4 サイズ 1 ページ（厳守）、カメラレディ（そのまま印刷可能な）原稿のご用意をお願いします。歴史地震研究会ホームページからダウンロードした標準フォーマット（Word ファイル）を書き換える形で原稿を作成のうえ、原則として Word ファイルを電子メールで提出してください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7 月 31 日（火）必着といたします。原稿の送付先は 8. 懇親会・巡検参加申し込み先，講演要旨送付先をご参照ください。

要旨の標準フォーマット <http://www.histeq.jp/doc/AbstractFormat.doc>

4. 発表について

口頭発表では、原則として各自でご用意いただいた PC を接続していただきますが、Windows 1 台、Mac 1 台をこちらで準備しております。ポスター発表で使用するボードの貼付面のサイズは、高さ 176cm×幅 94cm です。これに収まるように作成ください。縦長ですのでご注意ください。大会 2 日目の朝から 3 日目の昼までポスターの掲示が可能です。

5. 公開講演会『過去の南海地震に学び、次の南海トラフ巨大地震に備える』

講演：

○金原祐樹 氏（徳島県立文書館）

『南海地震の記録を遺す－徳島県立文書館の活動－』

○学校防災関係者（2 件）：牟岐町防災サークル，美波町立由岐小学校

『小中学生による歴史地震を活用した地域防災活動』

○石橋克彦 氏（神戸大学名誉教授）

『南海トラフ巨大地震とは何か，どう備えるか』

参加費等：公開講演会は、入場無料、事前申し込み不要、当日先着順、定員 200 名です。

6. 懇親会

日時：9 月 22 日（日）18:30～20:30（終了予定）

場所：徳島大学生協第一食堂

参加費：5,000 円

参加申し込みは 7 月 31 日（水）まで。申込先は 8. 懇親会・巡検参加申し込み先、講演要旨送付先をご参照ください。

7. 巡検

行程：12:30 徳島大学出発，16:30 徳島空港・17:00 徳島とくとくターミナル・17:30 徳島大学・徳島駅解散（バス移動）

昼食，松茂町指定有形文化財 敬湓碑（けいゆひ），松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館（資料館では人形浄瑠璃公演を見学します）

参加費：4,000 円程度（昼食・保険含）

定員：50 名（先着順に受付，会員及び研究発表会参加者を優先します）

参加申し込みは 7 月 31 日（水）まで。申込先は 8. 懇親会・巡検参加申し込み先，講演要旨送付先をご参照ください。保険加入のため，氏名・住所・生年月日・電話番号（携帯可）をお知らせください。

8. 懇親会・巡検参加申し込み先, 講演要旨送付先

電子メールの場合:

rekishi2019@histeq.jp

第 36 回歴史地震研究会行事委員会: 馬場俊孝 (委員長), 井若和久, 小松原琢, 松崎伸一, 室谷智子

手紙の場合:

〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町 2 丁目 1 番地

徳島大学大学院社会産業理工学研究部

研究会行事委員会 馬場俊孝 宛

第36回歴史地震研究会（徳島大会）プログラム

9月21日（土） 受付9時00分～

口頭発表セッションⅠ 歴史地震全般Ⅰ 10:00～11:00

O-01 井若和久・松重摩耶・上月康則

歴史地震を活用した防災教育について

O-02 加納靖之・中村亮一・佐竹健治・宇佐美龍夫

歴史地震の震度分布データベースの構築

O-03 司 宏俊

深部地盤の影響を考慮した地震動予測式の歴史地震震源位置探索への適用

O-04 榎本祐嗣・山辺典昭・杉浦繁樹・近藤 斎

歴史地震資料に散見される渦巻く雲について:LHAI(地圏-水圏・気圏・電離圏)EM coupling
の可能性

休憩<15分>

口頭発表セッションⅡ 歴史地震全般Ⅱ 11:15～12:00

O-05 井上公夫

いさぼうネット「歴史的大規模土砂災害地点を歩く」から地震による大規模土砂災害事例
の紹介

O-06 西村裕一・千葉 崇・石澤堯史

噴砂はどのように形成され、地層に残るか

O-07 上相英之・蝦名裕一・多仁照廣

判読可能な碑文画像の収集とひかり拓本データベースの構築

口頭発表セッションⅢ 九州・沖縄地方の地震と諸現象 12:00～12:45

O-08 原田智也・三好崇之・石橋克彦・佐竹健治

1596年伊予・豊後地震（文禄五年閏七月九日）の津波波源モデルの検討

O-09 松崎伸一・日名子健二・平井義人

文禄五年閏七月十二日に豊後で大地震はなかったのか？

O-10 松浦律子

1791年沖縄本島での津波の原因について

昼休み

公開講演会 15:00~17:15 (開場 14時00分)

『南海地震の記録を遺すー徳島県立文書館の活動ー』 金原祐樹氏 (徳島県立文書館)

『小中学生による歴史地震を活用した地域防災活動』

牟岐町防災サークル, 美波町立由岐小学校

『南海トラフ巨大地震とは何か, どう備えるか』 石橋克彦氏 (神戸大学名誉教授)

22日(日) 受付8時30分~

口頭発表セッションIV 南海トラフの地震と諸現象 9:00~10:30

O-11 新田康二

三重県の地震・津波モニュメントの特徴について

O-12 盆野行輝

宝永地震における志摩国鳥羽の津波浸水域について

O-13 奥野真行

1707年宝永地震の津波到達に関する検討

O-14 今井健太郎・堀 高峰・高橋成実・古村孝志

1854年安政東海地震の波源に関する再考

O-15 都築充雄

安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理(その5)西尾市における寺院被害の推定

O-16 平川一臣

伊良湖岬, 伊勢志摩沿岸および蒲生田岬の津波堆積物

休憩<15分>

総会 10:45~11:45

昼休み

ポスターセッション コアタイム 12:45~14:15

休憩<15分>

口頭発表セッションV 関東地方の地震と諸現象 14:30~15:45

O-17 金子浩之

墓石の増減から元禄16年関東地震津波の被害様相を復元する

O-18 三神 厚・海野晃司

1703年元禄地震による東海道大磯宿から小田原宿にかけての被害と地盤の常時微動観測

O-19 中村 操・松浦律子

1855年安政江戸地震の史料を読み直す

O-20 武村雅之

関東大震災と東京－江東区の慰霊碑・記念碑・遺構

O-21 佐竹健治

日記史料と震度データベースからみた過去400年の江戸・東京の有感地震

休憩<15分>

口頭発表セッションVI 東北地方の地震と諸現象 I 16:00～17:00

O-22 小松原琢

1694年元禄能代地震による地殻変動の再検討

O-23 蝦名裕一・行谷佑一・今井健太郎

岩手県山田町における明治三陸津波以前の歴史地形復元

O-24 沼田 清

明治三陸津波の写真記録の全体像

O-25 松岡祐也

石巻測候所仙台出張所の開所時における地震観測設備の整備

休憩<15分>

口頭発表セッションVII 東北地方の地震と諸現象 II 17:15～18:00

O-26 長谷川雄高

庄内地震（1894年）における浄土宗および颯田本真尼の活動について

O-27 水田敏彦・鏡味洋史

1939年男鹿地震の写真と映像資料に関する文献調査

O-28 樋口茂生・高橋 明・坂東和郎

近代生成層－新潟地震地盤災害図（西田他, 1964）の見直し－

懇親会 18:30～

23日（月） 受付8時30分～

口頭発表セッションVIII 四国地方の地震と諸現象 9:00～10:15

O-29 都司嘉宣・都司雅子

徳島県鳴門市・阿南市間海岸での安政南海地震（1854）の津波分布

O-30 松尾裕治・村上仁士

高知城下にあった宝永堤の津波対策としての評価

O-31 今村隆正

徳島県の土砂災害の歴史

O-32 石橋克彦

1605年慶長大津波の際の四国の地震動

O-33 山田昌樹・藤野滋弘・Wang Yuchen・楠本 聡・前野 深・佐竹健治

徳島県田井ノ浜の沿岸低地で見つかった鬼界カルデラ噴火による津波堆積物と数値シミュレーション

休憩<15分>

口頭発表セッションIX 中国・近畿・中部地方の地震と諸現象 10:30~12:00

O-34 宍倉正展・前杵英明・越後智雄・行谷佑一・地庵栗加

石見豊ヶ浦周辺の地形と生物遺骸群集に記録された1872年浜田地震と1回前の隆起

O-35 阪本真由美

1925年北但大震災と日本の防災教育

O-36 大邑潤三・加納靖之・服部健太郎・中西一郎

京都帝国大学の調査記録によって判明した北但馬地震の字別倒壊率と地下水変位

O-37 鏡味洋史・水田敏彦

1943年鳥取地震直後の踏査報告の足跡をたどって

O-38 西山昭仁

日記史料にみる江戸期京都における有感地震の検討

O-39 栗本享宥・苅谷愛彦・目代邦康・山田隆二・木村 誇・佐野雅規・對馬あかね・李貞・中塚 武

1586年天正地震で生じた可能性のある庄川断層帯南端部の大規模地すべり

巡検 12:30~

ポスター発表

P-01 篠田海遥・大竹律輝・大道麻優子・中川美生・柴山靖彬・谷中博樹・逸見俊太郎・荒井賢一

1923年関東地震に関する石碑が建つ埼玉県幸手市の神明神社周辺にお住まいの方を対象としたアンケートによる地震の意識調査

P-02 木下恭子

関東大震災と鎌倉一宮内公文書館蔵『震災写真帳』にみる鎌倉御用邸を中心に一

P-03 山村紀香

阪神・淡路大震災によって明るみに出た関東大震災の手記

P-04 中村亮一・酒井慎一・村岸 純・石瀬素子・加納靖之・佐竹健治・宇佐美龍夫

1855年安政江戸地震の震度分布データベースの構築(1) —宇佐美(1995)の詳細震度分布図のデジタルアーカイブ—

P-05 石瀬素子・中村亮一・村岸 純・原田智也・酒井慎一

1855年安政江戸地震に関する成田市周辺被害の諸記述について

P-06 加納靖之・佐藤孝之

1835年(天保六年)の上州の地震活動

P-07 矢沼 隆

「東北日報」に見る宮城県山元町坂元における明治三陸地震津波被害記録

P-08 蝦名裕一・今井健太郎

秋田県関村における歴史地形と象潟地震被害の復元

P-09 行谷佑一・蝦名裕一・今井健太郎

岩手県山田町周辺における明治三陸地震津波の被害

P-10 西村裕一

北海道の遺跡発掘調査報告書に見られる「噴砂」の記録

P-11 西村裕一・石澤堯史・千葉 崇・横山祐典・宮入陽介

津波堆積物から描く慶長地震津波(1611年)の北海道における波高分布

P-12 石橋克彦

1605年慶長地震・津波の全史料の整理・ランク付け

P-13 久永哲也・内田篤貴・椋代大暉・佐々木哲朗・岩瀬 聡・浦谷裕明・武村雅之・都築充雄

東海地域における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する現地調査結果について

P-14 都司嘉宣・岩瀬浩之・鈴木隆宏

徳島県の太平洋海岸を襲った宝永(1707)、および安政南海地震(1854)の津波の高さ

P-15 濱野未来

テキスト分析による地震記録評価の試み

P-16 松浦律子・中村 操

近世の歴史地震の系統的解析—20年間のまとめ

P-17 中井春香・阪本真由美

学校教育における歴史災害意識調査の考察—三河地震の認知度と教育への展開—

P-18 榎本祐嗣・杉浦繁貴・近藤 斎

過去に活動した地震断層近傍の γ 線強度